

生物多様性ってなに？

金井 賢一

ニュースや新聞などで「生物多様性」という言葉を聞くことも増えてきましたが、皆さん聞いたことがありますか？聞いたことがあっても「正直よくわからない」という人が多いと思います。今回はこの「生物多様性」がどのようなものか、紹介します。

多様性とは？

鹿児島県には黒豚トンカツやラーメンなど、地域独特の食べ物がありますね。同様に博多にはとんこつラーメンがあり、熊本には太平燕があります。このように「いろいろなものがある」のが、多様性です。

もし街中にあるお店がコンビニエンスストアばかりになったらどうでしょうか？年中無休で便利ですが、鹿児島らしさという点はなくなりますね。これが、「多様性が失われた状態」です。たまに道の駅などに立ち寄ると、地域の方々が育てた野菜や、地元の料理などがあり、懐かしさや珍しさを感じますね。これが地域の多様性です。



道の駅で販売される地元産農作物

生物多様性の保全も同じように、その地域ごとに本来すんでいる生きものたちが、今までどおり生活できることを目指しています。

生物多様性の3つの視点

まず最初に思い浮かぶ生物多様性とは、「多くの種の生きものがいること」ではないでしょうか。もちろんこの【種の多様性】という視点も大切ですが、他にも大事な視点があります。

多くの種がすむためには、「さまざまな環境」が必要です。明るいとこを好む生きも

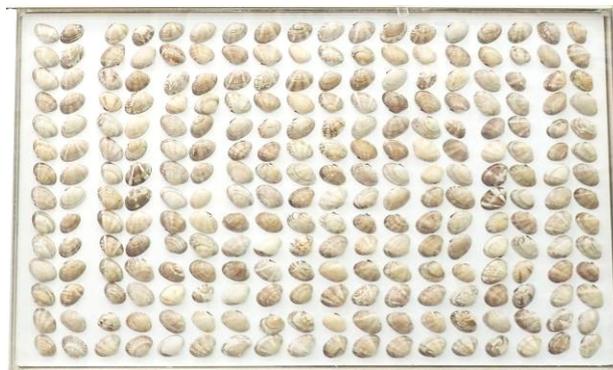
のもいれば、日陰を好む生きものもいます。さまざまな環境があること、【生態系の多様性】があって、はじめて多くの種が生活することができます。

また、それぞれの種の中に、「さまざまな個性」も必要です。乾燥に強い、低温に強いなど、同じ種でも少しずつ性質が違うものが混ざっていると、環境が変化したときに対応できる可能性が高まります。この【遺伝子の多様性】がないと、多くの種が絶滅の危機に直面します。

生物多様性を正しく理解するには

- (視点 1) 生態系の多様性
- (視点 2) 種の多様性
- (視点 3) 遺伝子の多様性

という3つの視点で、周りを見る必要があります。そして、この3つは互に関係し合っているのです。



アサリのいろいろな模様（遺伝子の多様性）

現在、環境省や鹿児島県、鹿児島市や霧島市など、さまざまな行政機関が「生物多様性戦略」という方針を立てて、一般の方々にも意識してもらおうと企画しています。しかし、「生物多様性」という言葉自体の認知度も、2018年時点で40%に満たないのが現状です。今後、人と自然が共に良い状態で暮らしていくためには、多くの人々が「人にも自然にも優しい生活」を意識していくことが大切です。博物館でも広く来館者に意識してもらえらるための企画展を、2018年12月22日から2019年2月24日まで開催しています。是非ご覧ください。